

自己評価報告書

平成23年 4月18日現在

機関番号：13101
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2008～2011
 課題番号：20520036
 研究課題名(和文) 大慧禅の思想史的研究

研究課題名(英文) A Study of the Zen Thought of Da-Hui

研究代表者

中西 久味(NAKANISHI HISAMI)
 新潟大学・人文社会・教育科学系・教授
 研究者番号：00143743

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：哲学・中国哲学

キーワード：大慧宗杲 『大慧普覚禅師年譜』 儒仏交渉

1. 研究計画の概要

本研究は大慧宗杲の禅を中国思想史のなかに位置づけようとするものである。具体的には、(1)『大慧普覚禅師年譜』および『大慧普覚禅師普説』の訳注の作成、(2)大慧禅の特質を可能なかぎり究明すること、(3)大慧禅と宋代士大夫との交渉についての考察を目指している。

2. 研究の進捗状況

(1)中国国家図書館や日本の内閣文庫で、大慧に関わる主な著述『大慧普覚禅師年譜』『大慧普覚禅師普説』『大慧普覚禅師語録』二巻本(以下『年譜』『普説』『語録』と略す)などについて、宋刊本や五山版などのテキストの調査をした。その結果、宋の宝祐元年(1253)に中国国家図書館に所蔵される現存最古の『年譜』が重刊されているが、そのさい『語録』(三十巻とされる)や『宗門武庫』『遺録』もあわせて刊行されたいこと。

尤*撰の「大慧普覚禅師語録序」、および程公許の跋・呂祖謙の啓・劉震孫の書後・楊棟の書後もまたこの重刊本に付けられていたらしいこと。そのうち呂祖謙の啓は今まで注目されていず、楊棟の書後は内閣文庫本『語録』に付けられており、日本にのみ残存すること。尤*や劉震孫は大慧と朱子の関わりを強調し、楊棟などは大慧と呂祖謙との関わりを認めており、序跋によって、南宋末の士大夫が大慧禅と朱子学ないし宋学との調和を図っている具体的な状況が窺われることなど、おおよそ以上のようなことを確認した。(*は〔火偏+育])

(2)大慧が住した径山万寿寺(浙江省)の現

地調査をし、終焉の地となった明月堂(妙喜庵)とその前面の明月池の位置を確認した。また、境内に残存する、嘉泰三年(1203)に建てられ、孝宗の書と楼鑰撰「重建径山興聖万寿禅寺碑記」が刻まれた石碑などから大慧の事跡を調査した。

(3)清代以前に撰述された『径山志』『明州阿育王山志』などの仏寺志や、『〔淳熙〕三山志』『〔康熙〕衡州府志』『〔万曆〕広東通志』などの地方志から、大慧の足跡を伝える資料を収集した。とりわけ地方志には大慧の足跡に関わる具体的な記述が残されていることを確認した。

(4)『大慧普覚禅師年譜』と『大慧普覚禅師普説』の訳注については、継続している。

3. 現在までの達成度

やや遅れている

(理由)

国内外における大慧に関する資料収集はほぼ実施することができたが、それに基づく成果の発表が遅れている。

4. 今後の研究の推進方策

(1)『大慧普覚禅師年譜』と『大慧普覚禅師普説』の訳注については、研究期間内の完成を目指し、研究成果をまとめる。

(2)大慧禅の特質については、ひとまず、彼の生涯とその思想を辿ることによって究明につとめる。

(3)大慧禅と宋代士大夫との交渉については、これまで収集した資料にもとづいて考察し、研究成果としてまとめたい。

5. 代表的な研究成果
(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

〔雑誌論文〕(計0件)

〔学会発表〕(計2件)

中西久味、契嵩与天台宗、中日韓天台宗学術対話国際学術研究会、2009年11月22日、光山县藍天賓館(中国・河南省)

中西久味、『輔教編』と『夾註輔教編』、第79回禅学研究会学術大会、2008年11月29日、京都・花園大学

〔図書〕(計1件)

麻天祥・他、中国・河南人民出版社、
(仮)中日韓天台宗学術対話国際学術研究会
論文集(論文:中西久味「契嵩与天台宗」)、
2011年、印刷中

〔産業財産権〕

出願状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
出願年月日：
国内外の別：

取得状況(計0件)

名称：
発明者：
権利者：
種類：
番号：
取得年月日：
国内外の別：

〔その他〕